

家庭系プラスチック資源の分別・再資源化施策について(答申)の構成(案)

＜答申案の作成の進め方＞

- 1) 委員意見を分類して以下の構成案(左側)を作成しており、追加のご意見を反映して再構成します。
- 2) 次回審議会に文章形式の答申案を提示し、ご審議いただきます。
- 3) 市民をはじめとした関係者の皆様が答申内容を理解しやすいよう、簡潔に伝わる文面をめざします。
委員意見の趣旨を踏まえた表現としつつ、同様の意見については集約する場合があります。

構 成 案	参考:委員意見 (実際の答申文に委員名は掲載しません)
はじめに ・諮問の背景及び答申とりまとめの経緯	—
1 家庭系プラスチック一括回収・再資源化事業 (1) 基本的な考え方	<p>【飯田委員】 脱炭素に向けて、廃棄物部門でもプラスチック資源の分別を実施すべきである。</p> <p>【藤原委員】 プラスチックの回収方法については、市民負担や処理に必要な選別施設の確保などコスト面も含めてシステムを検討する必要がある。</p>
2 一括回収・再資源化事業の実施方法 (1) 分別排出方法 ① 対象品目	<p>【藤原委員】 全国的に資源ごみなどから発火が起きていて、おもちゃなどにリチウム電池が入っていないとうっかり誤解してしまうので、おもちゃを対象外とするのは非常に良いが、判断が難しいと思うので、市民の方に丁寧に説明された方がよい。</p> <p>【秋元委員】 ペットボトルキャップはスーパーや企業、学校などでキャップだけで回収しているので、住み分けなどの工夫が必要である。</p> <p>【渡辺委員】 詰め替え容器について、意識が高くて詰め替え容器に変えられたと思うが、それらが洗ったら良いというわけではなく、プラスチックごみの対象外になってしまうが、それで良い。</p> <p>【飯田委員】 高齢単身者や外国人の増加に伴い分別対象品目はわかりやすいように限定すべきと考える。 高齢化が進展しているので、分別排出ルールはわかりやすさ、実践のしやすさを考慮して検討すべきである。</p> <p>【盛田委員】 プラスチック以外の素材が含まれているものを外するのは難しい。対象外にしている自治体もあるので、周知方法と回収方法をよく検討していただきたい。 分別の仕方は変えない方が混乱せず、協力していただく条件となる。</p>

<p>②排出容器</p>	<p>【市原委員】 排出容器の容量について、プラスチックごみは、かさばるものが多いので、モデル事業で使用した20リットルより大きな30リットル程度の大きさを検討したほうがよい。複数の種類の製造、販売は、混乱を招く恐れがあるのではないか。プラスチック資源の袋の価格については、可燃ごみ・不燃ごみの袋と同程度の金額を基本に検討すべきである。</p> <p>【盛田委員】 可燃ごみ袋は半透明になっており、しっかり見えることで、出す側が分別をしなければならないという意識向上がとても大事である。袋をどうするのかこれから検討されると思うが、市民が分別に協力しやすいということの意見を持っている。</p> <p>【岩井委員】 プラスチックごみはかなり量が出るのと予想され、食品にプラスチックで梱包しているものもかなりあり、かさばる。どんなような出し方をするかによって、袋の大きさを考えていかなければならない。ごみの量の分別をきちんと見て、袋の大きさ等を決めていっていただきたい。</p> <p>【飯田委員】 千葉市民は指定袋に慣れており、プラスチック資源の指定袋も定着すると思う。わかっているけども守らない市民もいるので可燃ごみ等と完全に違うということを働きかけるべきである。 回収する資源の品質が重要な要素であり、広告媒体のみならず、指定袋に注意点を記載するなど多角的な周知PRをしていくことがよい。</p> <p>【小林委員】 発泡スチロールは袋に入りきらないものもあるので、排出時の対策を考えていただきたい。</p> <p>【加藤委員】 プラスチックの粗大ごみもあるが、対象にするというのは、現状では考えていないのか。</p>
<p>③処理過程での資源化</p>	<p>【伊藤委員】 どの程度の未回収となる見込みが発生して、そのコストをどういうふうにとらえて事業を展開していこうとされているのか、ごみを収集事業者の苦労、大変さというのは多分我々でははかり知れない部分がある。事業者の意見を聞きながら収集体制の確立ところをしっかりと詰めていかないと、全市展開をした時、事業者側の負担感が大きくなってくのではないか。</p> <p>【飯田委員】 パッカー車は車両の納入に約2年間がかかることから、準備を進めるにあたり、十分な期間を見込むことが必要である。</p>

<p>(3)再商品化ルート</p>	<p>【倉阪委員】 再商品化のやり方については、資源として回収する以上、できる限り燃やさないほうが良い。</p> <p>【盛田委員】 熱エネルギーを回収して利用するやり方は、国際的にはリサイクルと見なさない。サーマルリカバリーという言い方をしたということです、きちっと認識することが必要である。</p> <p>【加藤委員】 固形燃料を対象にするということであれば、それほど綺麗にこしたことはないが、綺麗さにこだわる必要はない。</p> <p>【飯田委員】 プラスチックが確実に再商品化されるように、再商品化事業者と綿密な調整をしていくことが必要である。自治体側ではリサイクル処理の支障となる異物を低減させ、品質を保つ努力が求められる。 リサイクルルートは複数確保して安定化させることも選択肢となる。安定的かつ効果的なルートとなるよう検討されたい。 将来的に材料リサイクルまたはケミカルリサイクルを検討していくことを住民に周知していくことがよい。</p>
<p>(4)持続可能かつ効率的な仕組み</p> <p>①リデュース・リユースの取り組み強化</p> <p>②質の高いリサイクルルートの確保</p> <p>③市民の理解と協力に向けた取り組み</p>	<p>【倉阪委員】 ごみ減量のためのちばルールが改定されている。マイバッグの使用は20回以上といった具体的な行動に結びつける施策が必要である。</p> <p>【倉阪委員】 プラスチックトレイは、別に回収されていたものが、一緒に回収されてしまうことで、質の良い形でリサイクルできていたものが、リサイクルの質を落としてしまうという可能性がある。 食品トレーや発泡スチロールなどの単一素材は、市の財政負担を考えて望ましいルートを検討していただきたい。</p> <p>【盛田委員】 質の高いプラスチックリサイクルの考え方はとても大事で、より高い質のリサイクルを考えた時には、市民が身近で協力できるところを増やしていく考え方が必要である。コンタクトレンズケース等の拠点回収場所が増えれば市民の協力も増える。</p> <p>【倉阪委員】 一括回収は出す方にとっては楽だが、本格実施する際に、市民に対し、単一素材で回せるものはできる限り単一素材でという呼びかけをしたほうが良い。 リサイクルコストにかかる情報を排出者に伝えて啓発していくことがよい。</p>

	<p>【渡辺委員】 簡略化したもので出して、ここを変えるとCO2が減る、増えるというのを、公開して欲しい。固形燃料化しないとか、最後製品はどのようなものにしていくのかを市民に見える化することで、自分がCO2削減に貢献するんだというのがわかる。</p> <p>【岡崎委員】 市のホームページの中に、特別コーナーみたいなものを入れて、リサイクル、CO2削減というだけではなく、良い効果があることが目に見えてわかり、自分事として、楽しみながらそれに加われるようになると良い。ログインするたびにポイントを貯められるなど特典に繋がるような楽しみに結びつけて広げていっていただけたらいいのではないかな。</p> <p>【小林委員】 健康ウォークのポイント付与があるが、環境にやさしい何か活動したらみたいな形で、やって行くようなことができれば良い。</p> <p>【岩井委員】 地域によって大分差があるので、啓蒙活動がとても大事だと思う。早見表を見させていただいて、分別方法をきちっと把握できるかどうか。</p> <p>【飯田委員】 わかりやすいPR・啓発が重要であり、不適物を見せ、なぜそれが出せないのかなど、よく理解してもらうことも大切である。 リサイクルの手法と、どのように資源循環していくかを周知することで、市民の分別へのモチベーションを高めていくことが肝要である。 リサイクル技術が進歩しているので、市民に対してリサイクル手法の違いを理解してもらう取組みが重要となる。</p>
(5) 事業スケジュール	<p>【盛田委員】 全市展開は令和11年度から前倒しようということを市は考えていると思うが、早く進めていただきたい。モデル地区の状況を早くから全市に共有しておくことが大事である。</p> <p>【岡崎委員】 すごく丁寧に進めおり、モデル地区の皆様が協力的で、アンケートも信頼性が高い。急ぐべきところは急ぐべきだが、丁寧に進めていただけたらと思う。</p> <p>【小林委員】 環境問題があるので、可能な限り早くやっていただきたい。ある程度目途がついたら、市民にいつからこういうことを始める予定ということを少しでも周知していただきたい。ごみステーションの張り出しも活用して周知徹底するとよい。</p>

<p>2 事業展開による効果及び事業費</p>	<p>【加藤委員】 プラスチックの分別収集再資源化によって、温室効果ガスの削減効果があると思うが、コストアップは幾らぐらいになるのか。</p> <p>【岡崎委員】 CO2の排出量が削減できてエコであるということが数値化される場合には、その数式がどういうふうに算出しているのか。</p> <p>【飯田委員】 新たな分別収集を実施するには、追加的なコストがかかる。持続的に分別ができる環境を整えることが大切であり、時間軸も見据えながらしっかり議論すべきである。</p>
<p>3 併せて実施する事業等</p> <p>(1)民間事業者への働きかけ</p> <p>(2)ごみステーションにおける環境対策</p> <p>(3)リチウム電池の資源化対策</p> <p>(4)中長期的なごみ削減対策</p>	<p>【渡辺委員】 今後の行動、事業者への働きかけ等で、計り売り店を増やしていくとかそういった、企業へのアプローチも、今後検討してはどうか</p> <p>【盛田委員】 軽いものなので、回収されるまでの、飛散防止がとても大事である。ごみステーションに出したときに、何も無いと風が強い時は飛んでいくので対策を考えることが必要である。</p> <p>【飯田委員】 施設での発火事故による修理及び修繕費用の問題、何より市民のリサイクル意識を高める為にも、ぜひリチウム電池対策の検討を進めてもらいたい。</p> <p>【渡辺委員】 プラスチックごみの分別により意識が高まって、燃えるごみ自体が減ることも想定できる。通常のごみ捨てへの意識改革があるとする最終的には、燃えるごみの減量に繋がっていくかどうか、その先を見越しているのか。生ごみの減量は、資源循環という意味でもすごく重要な仕組みであり、燃えるごみが減ったかどうかのところから予測できる。</p> <p>【盛田委員】 可燃ごみが減るとプラスチックが多いので、回収も週1回で良い。</p>
<p>資料：審議経過(開催日、審議項目)、諮問文</p>	<p>—</p>